

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時 館		
事業所名	グループホーム あいある石山		
所在地	札幌市南区石山2条4丁目1-50		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「私たちは利用者様個々の生活を尊重し、自分らしく笑顔で安心して暮らせる環境を作り、地域に根ざし 温かい福祉社会の実現を目指します。」や5つの介護指針、各ユニットのケア目標の実現に基づき、全ての入居者様の住み良い環境や対応・支援等を目指し全てのスタッフが活き活きと働いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502496&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502496&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの優れている点は、4つに要約することができます。1つ目は、職員の仲の良さが関係プレーとなって、利用者、家族への温かな接遇となっていることです。計画作成担当者、介護支援専門員等の職員が中心となって、「OJT」つまり働きながらスキルの習得を図る実践が日常行われています。目には見えない職員同士のハイタッチが感じられます。2つ目は、利用者の自立支援がしっかりと根付いていることです。利用者の自力誘引が先との共通したポリシーが見えます。食事、または排泄など、いずれも自立への支援が先行しています。3つ目は、地域との融合です。隣接する寺院境内で行われる地域の夏祭り、盆踊り、または除夜の鐘に集まる住民の方々と上手に溶け込んでいます。4つ目は、楽しめる食事です。日頃の利用者の希望を踏まえ、ユニット毎に栄養士を交えて食事会議が開かれています。食事の様子など、職員全員で協議しながら楽しい食事を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より、理念や介護指針を毎日、目に見える場所に掲げ、実際のサービスとして提供出来る様、取り組んでいる。	利用者が、緩やかな時の流れに沿いながら、自然に棹差すことなく、ゆったりとした暮らしの実現、理念の弛まぬ実践に向け職員全員が努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との外出の際や行事の際などにも、こちらから挨拶をする様にしている。	隣接する寺院の境内は、町内の憩いの場でもあり、利用者が住民の方々との交流が可能となっています。ホームでは地域との交流をより大切にして取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、日々の利用者の様子をお伝えするなどし理解してもらえる様、努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々のホームにおける利用者の様子や、現在のホームにおける取り組み、また今後の経営計画等の報告を行っている。	今年から定期的な会議開催となっています。ただし、出席メンバーが少数であるなど限られており、会議の内容も硬直化している感じがします。	サービス向上を図るため、評価の公表と改善に向けた取り組みなど、また、医師などの専門家を招致するなど、会議の内容に柔軟性を持たせ、家族、地域住民、職員が一体となって取り組める会議となるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所・区役所担当者ともに率直に意見交換をしサービスに反映している。	区の担当者とは、管理者会議などで連携するなどしていますが、今後は評価に対する改善に向けた取り組みなど、連携を図りながら進めることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修を行い、拘束に対するの禁止を訴え職員に徹底している。	身体拘束のないケアを実践するため、内部研修などで度々取り上げて徹底化を図っています。玄関の施錠は、夜間のみで昼間は職員の見守り、心配りなど、施錠のない自由な暮らしの支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修を行い、職員で日々お互いの介護について見直す機会を設けている。今後も定期的に、取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、施設内研修を行い職員で共有する機会を作っている。必要な利用者には、対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ十分説明し、ご理解・ご納得いただける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 管理者が相談窓口になって対応し、何かあった時は速やかに対応している。	意見箱は設置してありますが、利用する方は多くはありません。家族の要望や意見は、専ら訪問時の話し合いの中から得ていますが、その内容の記録がありません。	家族との会話の中で、些細なことでも大切な内容を含んでいることを職員は自覚して、記録する習慣と管理者が運営に反映させるシステム作りが大切と思慮し、その取り組みに期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、役員会等に意見を出し合い、意見を反映させている。	職員間の信頼関係に培われた意見が出しやすい環境作りが行われています。施設長、管理者などから成る会議やミーティングで意見が出されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、職員個別に面談を行い職員の目標達成への援助やスキルアップ後のペースアップがある。 定期的に懇親会を行い、日頃のストレス発散に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1回、内部研修を行っている。外部研修にも事業所負担にて研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者の勉強会を定期的に包括支援センター中心に行い、事例検討会を行ったり職員同士の交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を傾聴し、安心して生活してもらえる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後・面会時や電話などで連絡を取り合い家族の思いを受け止め、希望に応える様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要な事は何かを考えながらご相談にお応えしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業を一緒に行い、一緒に生活しているとの意識が生まれ個々の利用者の役割・大切さ・必要性を相互に築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを図りながら、信頼関係を築き、利用者や家族の悩みや職員側の思いも伝え、家族と共に支えて行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には出来るだけ馴染みの家具を持ってきて頂いている。又、面会の少ない家族の方には、積極的に働き掛けている。	職員は、利用者のこれまでの生活歴を把握しながら、馴染みの関係維持に努めています。通院の途中に自宅付近を回ったり、馴染みの美容院利用なども支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時・15時のお茶の声掛け、同じ趣味を持った方々への声掛けをし、関係作りに働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡を取り合い、入院時などは面会に必ず行くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング時に本人から聞いた意向など、職員同士共有し、気持ちや思いに添える様に努めている。	職員の静かな声かけにより、利用者一人ひとりの思いや意向の把握がされています。バリエーションの実践が日常行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いながら家族や本人の情報を元に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いたり、日々のアセスメントを通じて把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを交えたカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	昨年からの改善の取り組みが効果を挙げています。計画の見直しも現状に即したアセスメントにより、穏やかな暮らしのリズムが営まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランを意識した記録の書き方をする様に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り要望にはお答えする様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からの、かかりつけ医で対応している。	利用者と家族に相談し、従来のかかりつけ医の受診支援が行われています。看護職員とかかりつけ医や協力医との連携もあり、適切な医療支援が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤に、出来るだけ受診日を合わせて常に情報交換を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入院医療機関とご家族と連携し情報の把握に努め早期の退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明し、その後も充分あり得る状況を想定して本人・ご家族の意向を尊重し出来る範囲で方針を決め、地域関係者と支援に努めている。	現在、ターミナルケアの実績はありませんが、ホームの指針を家族に説明しながら、終末期、重度化に向けた取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて外部からの講師を招いて行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	厳しい状況を想定した避難訓練を行い、地域住民の方々にも協力を呼びかけ、参加して頂いている。	スプリンクラーの設置やゆりのある非常階段など安心感があり、また、避難訓練に際して地域住民の方々の参加もありますが、対応マニュアルが十分ではありません。	非常時に際して、職員の分担、協力して頂ける住民の方々の役割など、明確にしておく必要を感じます。それぞれの役割やポジションを示すマニュアル作りへの取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生活歴等の情報を元に、カンファレンスし職員が統一したケアに努めている。	利用者への言葉かけも優しく、一人ひとりの人格尊重への対応がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場を作り、本人へ思いや、希望を表現しやすい雰囲気を提供する様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人や家族の意向を元にしたケアプランに沿って、その人のQOLの向上に努めたり、その日その日のペースを見極めながらの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケアでの整容を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を選ぶ所から始まり、盛りつけと一緒に工夫して配膳・下膳・食器拭きまで行う様に努めている。	食事は、利用者が自力を発揮する重要な場面と認識して、職員はできるだけ見守りしながら、楽しい食事の支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立表を元に、一人ひとりの状態や習慣に合わせた量や味・好み・食事形態と工夫を栄養士に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用をできるだけなくし、一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導、又はトイレに自ら行ける様に支援している。	利用者の尊厳を守りながら、トイレでの自力排泄を支援しています。生活の習慣に合わせたトイレ誘導などにより、オムツ利用の回避が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など歩行運動と経口摂取のバランスと合わせて予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、曜日と時間は決めていますが、その時々で個々の希望を確認して調整して入浴して頂いている。	利用者の体調も考慮しながら、週に最低2回の入浴が続けられています。利用者のタイミングにより、一人ひとりに沿った入浴支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間帯は、個々の習慣に合わせた時間で尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬事情報提供書をスタッフルームに管理して内服理解と毎日のバイタル測定を行い症状の変化を診ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味等を活かし活動している。時にはドライブ・外食等の行事も実施。誕生会には本人の好きな食べ物の提供や嗜好品の提供もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物など希望に応じている。	温かい季節には、利用者にとって隣接の寺院の境内での散策が、地域の方々との交流もあり楽しみの一つです。散歩や買い物にもできるだけ対応していますが、家族の協力も得るようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理を見守ったりしている。外出時には、実際にお金を渡し、使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時には、取り次いでいる。目の不自由な方への手紙の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、いつも清潔にするよう努め、ゆったりとした空間づくりを心掛け、廊下・居間には入居者と共に作成した季節の装飾品を展示している。	居間の広い窓からは、真向かいに広がる山の木々が見え四季の香りが迫ります。居間と食堂はレトロ調の家具等があり、ゆとりのあるスペースの確保により、ゆったりと心地良い暮らしが継続されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、幾つかのグループにも分けて座れるよう工夫している。廊下にもベンチを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前からの馴染みの物を使用して頂き、出来るだけ以前の生活に近い環境を作れる様に配置している。	使い慣れた家具、調度品を持ち込み、それぞれ温かな雰囲気の中で、居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置や車椅子の入居者にも使いやすい様に、洗面台を改修する等、快適空間になる様、努めている。		